

創立71周年

令和3年度 11月号



咲かせよう大正の花

つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



関わり合いの大切さ

園長 北村 恵

10月の運動会は、途中小雨が降る時間もありましたが、最後まで大正小学校の校庭で行うことができました。朝早くからご協力いただいた、小学校のPTA役員の方々、校長先生、副校長先生を始めとした小学校の先生方、保護者の皆様のおかげで、スムーズに準備、片付けを終えることができました。本当にご協力ありがとうございました。運動会のアンケートの中にも大正小学校の先生方や幼稚園の運動会係、役員の皆さんへの感謝の言葉がたくさんありました。また、子供たちが頑張っていたり楽しんでいたりする姿を喜ぶだけではなく、「保護者競技の紅白玉入れがとても楽しかった」や「最後に保護者も先生もみんなで一緒に輪になって踊ったダンスが、一体感があり楽しかった」という声もたくさんありました。昨年度は体育館で学年入れ替え制にして開催したためできなかった種目です。今年は、保護者の方にとっても、みんなで一緒にすることの楽しさを感じられた運動会となったことが嬉しいです。

今、子供たちは学年を超えた交流がとても活発になっています。9月末までは、緊急事態宣言が出ていて交流できない状態でした。しかし、10月1日以降は運動会への取り組みの中で3学年が一緒に行動する機会が増え、うさぎ組やぼんだ組にとっては、ぞう組が身近な存在になりました。ぞう組にとっても、お客さんとして3・4歳児に声をかけることが多くなっています。

『おみくじやさん』は、おみくじの入った箱を持って各学級を回ってくれます。私も引かせてもらいましたが「だいきち きっとあなたはうんどうかいでがんばれるでしょう」や「ちゅうきち きょうのらっきーからーはきいろ」など、引いた人が嬉しくなるような言葉が書いてあります。よく聞いてみると、うさぎ組に来るときには「はずれ」のくじ(はずれもあるのですね!)は、いれないそうです。うさぎ組の反応を予想して、そんな配慮もできるようになっていることに驚きました。

太鼓の会でキッズソーランの叩き方を習うと、数名の子供たちが、その日のうちに自主練をし、3・4歳児をお客さんに呼んで披露しました。すると次の日には、4歳児はたらいにガムテープを貼ってラップの芯で叩き、3歳児は空き箱を割りばしで叩き始めました。5歳児がホールで太鼓の演奏を始めると、4歳児が素早くぞう組の入り口までたらいの太鼓を運び同じように真似をして叩いています。ソーラン節を踊っている子供もいます。4歳児なりに一緒にすることの楽しさを感じている様子です。

10月26日の開園記念日の前には、ぞう組の4グループが一つずつ、71歳をお祝いするために誕生日ケーキを作ってくれました。降園前に、自分たちのクラスで幼稚園のための誕生会をするということで、他の学年も招待してくれました。みんなでハッピーバースデーの歌を歌ったので、きっと幼稚園も喜んでくれていることと思います。次の日、4歳児の保育室には可愛いケーキがたくさん並びました。

学年を超えた関わりを通して、刺激し合い遊びが深まっていく様子から、このような経験が子供たちの育ちに大きな影響を与えるということを再認識することができました。この先も子供たちの学びを守るために、コロナ禍であって、様々な人と関わり合うことを大切にしていきたいと思っています。